

製品名: GNG13 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11555**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	GNG13
別名	Guanine nucleotide-binding protein G(I)/G(S)/G(O) subunit gamma-13
遺伝子 ID	51764.0
SwissProt ID	Q9P2W3
免疫原	ヒト GNG13 由来の合成ペプチド AA 範囲: 1-50

背景

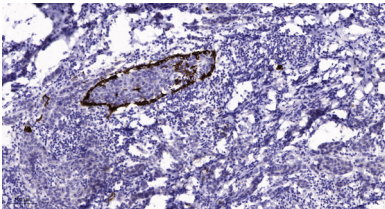
ヘテロ三量体 G タンパク質は、 α サブユニット（MIM 139320 参照）、 β サブユニット（MIM 139380 参照）、および γ サブユニットから構成され、7つの膜貫通ヘリックスを持つ G タンパク質共役受容体のシグナル伝達因子として機能します。GNG13 は、味覚、

網膜、神経組織に発現する γ サブユニットであり、味覚伝達において重要な役割を果たします (Li et al., 2006 [PubMed 16473877])。[OMIM 提供、2009年10月]、機能: グアニンヌクレオチド結合タンパク質 (Gタンパク質) は、様々な膜貫通シグナル伝達系において、調節因子またはトランスデューサーとして機能します。ベータ鎖とガンマ鎖は、GTPase 活性、GDP から GTP への置換、および Gタンパク質とエフェクターの相互作用に必要です。類似性: Gタンパク質ガンマファミリーに属します。サブユニット: Gタンパク質は、アルファ、ベータ、ガンマの3つのユニットで構成されています。

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45分)。